

小野市議会だより

2023.8

No.208



市民救命士講習修了証 小野市消防本部

救命技能を忘れることなく維持向上させるため、2年から3年間隔で定期的に講習を受講してください。

AED



令和5年
5月から

会派新体制スタート！



創生おの 「生きた政治をここから新たに始めよう！創りあげよう！」との意気込みを、会派名に込めました。



喜始真吾 幹事長 平田真実 副幹事長 安達哲郎 山本悟朗

おの未来図 市民の皆さまのお声と私たちの思いを「未来図」に描き、実現に向けチーム一丸となって活動しようと命名しました。



副幹事長 掘井ひさ代 幹事長 前田昌宏 山本麻貴子

市民クラブ 市民クラブは、「市民目線」を基軸として「同志が集った会」を呼称しています。



副幹事長 小林千津子 幹事長 河島三奈 前田光教

公明党 1964年11月17日に結党された「公明党」を会派名としています。



幹事長 川名善三 副幹事長 村本洋子

1～4期目、幅広い年齢層の議員で構成する会派です。積極的に問題提起し、他会派ともコミュニケーションを図りながら多角的に議論を深めます。また、固定観念にとらわれず良いものは継承し、変えるべきものは変革し、変化を恐れず市政発展のために尽力します。そして、多様化する価値観を認め合い、次の世代に責任を持って引き継ぐことのできる小野市議会を組織するため力を合わせて取り組みますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

視点や感性が違う新人3人が会派を結成しました。共通点は、地域での活動や交流を通して市民のお困りごとや課題を発掘しようとする姿勢です。

非常に変化の激しい時代にあって、常にアンテナを高くめぐらし市民感覚を活かしながら情報の収集と分析を進めます。お互いの多様性とアイデアを尊重し、会話とチームワークを重視して課題解決を探索します。活動報告や政策内容など情報発信に力を入れ、市民に開かれ愛される会派を目指します。

当初から「常勤」を活動方針として毎日メンバーと顔を合わせ、様々な情報を共有しながら、議会活動を充実させていくこと。また不易流行の精神で、施策や議会の運営も、変えてはいけなものの変えなければいけないものを見極め、議会活動をつないでいくことを重視し存続してきた会派です。

確固たる信念を持ち、議会運営に携わること、議員個人ではなく議会として意見をまとめていくことを信条とし、これからも研鑽していきます。

公明党は、「大衆とともに語り、大衆とともに戦い、大衆の中に死んでいく」との誓いを貫き、常に民衆の側に立つことを信条とします。真の人間主義に立脚し、どこまでも人間から出発する社会、人と地域が輝く社会をめざします。

会派とは？

活動を共にしようとする議員のグループです。小野市では、2人以上で結成することができ、1人の場合は無会派として活動します。

私たちは、無会派の議員です。



宮脇健一

日本維新の会です。身分や立場にあぐらをかかず、まずは自分自身の身を切って覚悟を示す。そして、一丸となって小野市をもっと前に進める。自分が小野市のために何ができるかしっかり考え、市民目線で日々活動していきます。



藤原 章

私は戦争中に満蒙開拓団として中国に渡り、敗戦で引き揚げてきた開拓の村・大開町で生まれ育ち、「戦争はいけない」「貧困をなくしたい」という思いを強く持っています。日本共産党として、その思いを貫いていきます。



高坂純子

無会派だからこそ出来ることがあります。小さな声が大きな声にかき消されないように♡感謝の気持ちを忘れず、自分にも厳しく、議員活動を行っていきます。



河島信行

私の活動方針の1番目は、教育環境の整備です。すでに小野中、小野南中は完成！旭丘中も整備が始まります。河合中は、この次です。2番目は、高齢者・障がい者等に優しい施策の提案です。例えば、補聴器購入補助制度の実現です。

提出議案と審議結果

★全会一致で可決した議案

区分	議案番号	議案名
補正	第29号	令和5年度小野市一般会計補正予算（第2号）
条例	第30号	小野市税条例の一部を改正する条例の制定について
	第31号	小野市職員の特殊勤務手当支給条例の一部を改正する条例の制定について
契約	第33号	市立旭丘中学校校長寿命化改修工事請負契約について
その他	第32号	消防ポンプ自動車の取得について
意見書	第1号	特定商取引法平成28年改正における5年後見直しに基づく同法の抜本的改正を求める意見書

★賛否が分かれた議案と審議結果

請願名等			会派名 議員名	議決 結果	賛 成	反 対	創生おの				おの未来図		市民クラブ		公明党		無会派	無会派	無会派	無会派
							平田 真実	安達 哲郎	喜始 真吾	山本 悟朗	前田 昌宏	堀井 ひさ代	山本 麻貴子	河島 三奈	小林 千津子	前田 光教	川名 善三	村本 洋子	宮脇 健一	藤原 章
請願	第1号	インボイス制度の 実施延期を求める 意見書を政府に送 付することを求め る請願書	不採択	2	13	●	●	●	※	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	○

※ 山本悟朗議員は、議長のため表決権はありません。

賛成＝○ 反対＝●

請願・陳情・意見書について

市の行政に対して意見や要望があるとき、市議会に対して請願書や陳情書を提出することができます。

請願とは？

議案と同じように本会議で議題として取り扱い、採択か不採択かなどの結論を出します。

「採択」とは、市議会が請願の趣旨を肯定すること、「不採択」とは、市議会として請願の趣旨を否認することです。

陳情とは？

原則として本会議での議題にせず、全議員に配布しその趣旨を伝えます。

請願には、必ず紹介議員が必要ですが、
陳情には必要ありません。

意見書とは？

住民の代表機関としての議会の意思を意見としてまとめたもので、国会または関係行政庁に対して提出することができます。

審議議案の中から PICK UP!!



一般会計補正予算第2号（議案第29号）
小野市のさらなる魅力アップを！
ひまわりの丘公園や桜づつみ回廊などの観光スポット、小野まつりや小野ハーフマラソンなどの集客力の高いイベント、それらの観光資源をリンクさせ、新たな観光資源や特産品などの掘り起こしに向けて、主に次のとおり実施します。
①「小野市観光推進アドバイザー」に流通科学大学 西村典芳 教授
②若年層の視点を活かした地域の活性化を目的として大学と連携した調査研究
《事業費》100万円



建設中の仮設校舎

（議案第33号）
旭丘中学校工事業者決まる
旭丘中学校校長寿命化改修工事の工事請負業者が公募型競争入札により決定したため、契約を締結します。
《相手方》
加古川市野口町良野1506番地
前川建設株式会社
代表取締役 前川 容洋
《契約金額》
12億7,770万5千円

消費者被害に対処するために

（意見書第1号）
85・2万件にのぼる消費生活相談のうち、特定商取引法対象の相談は半数以上にのぼります。超高齢化が進む中、高齢者を狙った悪徳商法や成人年齢の引き下げによる若年者を狙ったマルチ被害、インターネット通販に関するトラブルなどに対処するため、国に対し次のとおり法改正を要望する意見書を提出します。

《要望内容》

- ①訪問販売や電話勧誘販売について、消費者があらかじめ拒絶の意思を表明した場合には勧誘してはならない制度とすること及び事業者の登録制を導入すること
- ②SNS等のインターネットを通じた通信販売の勧誘等につき、行政規制、クーリング・オフ等を認めること、及び権利を侵害された者はSNS事業者等に対し、相手方事業者等を特定する情報の開示を請求できる制度を導入すること
- ③連鎖販売取引について、国による登録・確認等の開業規制を導入すること及び規制を強化すること

第443回 定例会

会議期間28日間
（6月1日～6月28日）

市長提出議案…5件

（補正予算1件・条例改正2件・契約1件・その他1件）

議員提出議案…2件（意見書1件・請願1件）

ここが聞きたい 一般質問!!

市民のみなさまの生活に
関わることに、
11人の議員が
一般質問を行いました。

(一般質問は発言した議員が編集しました)

●一般質問とは？

市政全般にわたり、執行機関（市長）に対し事務の執行状況や将来における政策方針等について議員が質問し、市長や部長等が答弁します。
また、小野市では、市長から提出された議案についても一般質問することができます。

●質問テーマは？

1. 質問する内容は、議案とは関係なく議員個人が自由に決めています。
2. 議員個人が自分なりの問題意識を市政に問い、市の見解を求めます。

●質問の制限時間は？

1人あたりの制限時間は40分です。(答弁は含みません)



《一般質問をスマホ・タブレットで視聴できます!》

各議員の顔写真の下にQRコードをスマートフォンなどで読み取ると、その議員の一般質問などの動画を見ることができます。



村本洋子議員（公明党）



子どもの幸せを最優先する社会に！

答弁 3歳までは家庭保育を優先する方針に変わりはない

質問 0歳児〜2歳児までの保育料の無料化について

答弁 保育料は、国基準の30%を軽減しており、小野市独自で無料化する意向はない。経済的な支援より、心理的、身体的な支援が必要。母子保健と子育て支援及び児童発達支援が連携した「こどもサポートセンター」の機能を発揮させることが重要。

質問 専業主婦家庭も定期的に利用できる保育制度の創設

答弁 一時保育や園庭開放等にも取り組んでおり、受け入れキャパシティの最大レベルで保育を実施している状況。政府が公表した「こども誰でも通園制度（仮称）」は、すぐには難しいが、数年後には空き定員も想定されるので可能だと考えている。

質問 子どもの意見の反映について

答弁 単に子どもの声を聴く場や機会を設けるだけでなく、行政に携わる職員も市民も大人側の聴く力が必要。子どもの幸せを測る「行政のモノサシ」を構築・共有し、新たな尺度で立案・実施・検証・改善に至るサービスの行程を子ども目線で改めることが、子どもの意見を反映することであると考えている。

奨学金の代理返還への支援について

答弁 本来、奨学金の返済は、貸与を受けた本人が行うべきものであり、代理返還制度は、従業員確保を目的として、企業自らが行うべきもので、独自の支援制度の創出は考えていない。

平田真実議員（創生おの）



道の駅構想の方向性は

答弁 市内を活性化させる起爆剤として調査する

質問 ひまわりの丘公園の集客力を生かす、オンラインワンの道の駅構想の方向性と今後の方針は。

答弁 民間力を活用した道の駅の基本構想等の策定に向け、現在は先進地事例研究や民間企業にヒアリングを行っている。今後のひまわりの丘公園の方向性を踏まえ、連携協定を締結した流通科学大学の専門家の知見を交え、設置位置を含め今後の方針を検討する。

ニュータウンの再生について

質問 市内最大規模の育ヶ丘団地の高齢化率は、令和5年4月末時点で38・15%、高齢者数は1,100人となっている。育ヶ丘団地がニュータウン再生の好事例を作るべきであるが、空き家や空き店舗活用の課題や可能性は。また、地域の活性化のきっかけとなる地域のきずなづくり



答弁 支援事業を、町の人口規模など地域の実情に合わせるべきと思うが考えは。育ヶ丘団地など、市内ニュータウンは市街化調整区域であるが、開発許可を得ており、様々な制限がなく誰でも住むことができ、空き家や空き店舗活用の可能性は十分ある。地域のきずなづくり支援事業は9年継続してきた事業で、抜本的な見直し時期でもある。いずれにせよ、まずは地域住人が主体となり、地域の強み弱みを明らかにしていくことが重要である。

安達哲郎議員（創生おの）



小学校での主権者教育について

答弁 社会科の授業を基本とし、総合的に取り組む

質問 本年4月に行われた市議会議員選挙において、若い世代の投票率が低かったという選挙結果を踏まえ、小学校の総合的学習の時間を活用し、主権者教育を推進してはどうか伺う。

答弁 授業内容の決定は、各学校長が行うことなので、市から強制することは現実的ではない。総合的学習の時間は、子ども達の探求心に寄り添い実施しているため、機運が生まれば主権者教育を取り入れることは可能である。主権者教育については、社会科の授業を基本としつつ、家庭科や道徳、そして児童会・生徒会選挙など総合的に学習しているが、さらに、自立して社会に参画するための資質能力や学びに向かう姿勢の育成に取り組んでいきたい。

河合中学校大規模改修工事について

質問 少子化による統廃合問題、小中一貫校議論も含めての、現在の進捗状況と今後の予定について伺う。

答弁 今現在具体的に進んではないが、今年一年間をかけて、現状のまま改修をするのか、別の場所に移設するのか、小中一貫校にするのかなど、幅広い分野の課題を洗い出していく。様々な方にヒアリングを行い、今後、委員会を立ち上げ慎重に検討を進めていく。



前田昌宏議員（おの未来図）



QRコード



ひょうご小野産業団地の評価と周辺開発

答弁 市の屋台骨となる成果。周辺開発を継続する**質問** 進出企業が決定した今、評価を問う。また、ひょうご小野産業団地と小野ニュータウンを結ぶ新道路「新都市南北線」の沿線開発の見通しはどうか。**答弁** 製造業3社、生産技術研究所1社、物流施設等4社の進出が決まった。投資総額600億円、600人超の雇用が計画され、雇用と税収の側面で小野市の屋台骨を支える成果があったと考えている。「新都市南北線」第2工区の沿線は、なだらかな丘陵地であり、住宅地や新たな産業団地など様々な開発が可能である。将来を見据え、県有地を活用した開発について、県と協議していく。また、多額の投資を要するため、沿線土地の価値を評価した上で、民間からの投資も選択肢となる。

（市長）

予防接種健康被害制度の申請状況

答弁 現在までに3名が申請に至り、うち2名が認定済**質問** 本年のワクチン接種は、5月

から高齢者、基礎疾患を有する方等を対象に、秋からは5歳以上の方（初回接種終了）を対象に予定されている。ワクチン接種後に体調が悪化したにもかかわらず、ワクチンとの因果関係不明とされるケースが多いと聞くが、予防接種救済制度への相談や申請の状況について伺う。

答弁 コロナワクチン総接種延べ人数14万人のうち15名の方から相談があり、申請に至ったのは3名である。

（市当局）

質問 らんらんバスの河合統合ルートは、他のスクールバスルートと比べて乗車人数が多く、座席・立席合わせて約35名が利用している。ランドセルを背負った小学生が乗車しているため、同乗した際に立って乗るのは危険だと感じた。バスの増車に

ついて伺う。

答弁 現在、小型ノンステップバス7台を小学生の登下校利用に合わせた時間帯にスクールバスとして運行している。従前の神姫バス路線を切り替えた路線バスであるため、登下校の時間帯でも一般の方も乗車いただける。満員の場合は立って乗ることになるが、高学年の児童が配慮し、低学年の児童を優先的に座らせることで事故の可能性は低くなり、貴重な社会体験にもつながると考える。バスの増便には安全性の観点だけでなく、通学距離を考えた他校との均衡、費用対効果などから、河合統合ルートに対し増便することは困難と考える。

（市当局）

河島三奈議員（市民クラブ）



QRコード



ひまわりの丘公園の今後は

答弁 今後の検証結果に基づき、総合的に研究していく**質問** 遊具の安全対策について**答弁** 遊びには一定の自己責任が伴うこと、小さな子どもに対しては、保護者が責任を持って利用していただくよう注意喚起している。今後、混雑状況や利用マナーの状況により、入場制限や監視員の常時配置など、安全確保対策が必要であると考えてる。

（市当局）

質問 保護者の居場所、飲食ができる場所、駐車場の有料化などについて**答弁** 公園の魅力や強み、来場者の利便性、そして、ひまわりタワー設置後まだ半年であることや、近隣地域での大型遊具の整備計画があることなど、公園全体の課題として検討する必要がある、多様な角度から最適な方策を研究していきたいと考えている。

（市当局）

記者発表・県庁機能の誘致について

答弁 現在の県庁舎1号館・2号館は、耐震基準を満たしていないため、三年後に解体を予定しており、議場も使用することができず、会議室で県議会を開催している。540万人の県民を擁する兵庫県シンボルであり、司令塔としてのあり方としていかなるものかという思いがあり、県庁機能の小野市への誘致を提案した。これまで疑いもしなかった県庁所在地について、既成概念にとらわれずゼロベースで議論する価値のある提案であると考えている。県庁舎の解体という具体的な現実が目前に迫っている今こそが、絶好の機会であるとして小野市の熱い思いを述べさせていただいた。

（市長）

山本麻貴子議員（おの未来図）



QRコード



掘井ひさ代議員（おの未来図）



QRコード



自主防災組織を小学校校区に再編

答弁 組織の再編より、現状を把握し機能強化を推進**質問** 自主防災組織の役員不足・人材不足・高齢化により、各自治会単

位の自主防災組織では、災害時の対応が出来ないのではと危惧している。地域により災害の程度が違つので、お互い助け合うこともできる小学校区での組織を再編すべきではないか。それにより、行政と自治会との連絡も簡素化できるのではと考える。

答弁 組織の肥大化は自治会に負担をかけることには必要はない。今一度、防災計画・防災訓練を基本に戻って反すうする。また、市民の防災意識向上の機会を増やすことのほうが理にかなっている。加えて、小野市の河川に対する予防保全は盤石である。**質問** 災害時等に活用する「避難行動要支援者名簿」への登録対象者である要配慮者（妊産婦・乳幼児・母子・父子・外国人）への周知が不足しているように感じる。市ホームページに掲載されている「避難行動要支援者制度のご案内」に、要配慮者も追記し周知することで取り残しゼロにつなげるのではないか。**答弁** 周知方法として、ホームページを含め制度案内の際には、具体的に掲載することも前向きに考えていきたい。

（市当局）

河島信行議員（無会派）



学校給食費の無償化について

答弁 学校給食費の無償化は考えていない

答弁 食材費の物価高騰対策として、今年度、2,000万円の補助を予定しており、学校給食費は値上げを行うことなく負担の少ない金額を維持している。無償化には、年間約2億円が必要であるが、教育分野では、学校改修や修繕等、優先する事業がある。現時点では、「学校給食費の無償化」は考えていないが、「学校給食費の無償化」に関しては、今後の国の動向を注視する。なお、低所得者世帯については、生活保護制度や就学援助制度による負担軽減策により、「実質無償化」の状況にある。

質問 観光人口増加のためのイベント開催について

答弁 小野希望の丘陵上競技場では、小野市陸上競技大会やサッカー大会

等を開催している。また、こだまの森では、小野市グラウンドゴルフ協会による大会や、大阪市の老人クラブ等が大会を開催し、小野アルプスでは、白雲谷温泉ゆびかをゴールとしたハイキングイベント等も行っている。知名度の向上に加え、飲食店において地域経済活性化に一定の効果があった。現時点において、新たなイベントを創設する予定はない。

質問 トイレ洋式化推進工事費用補助制度の創設について

答弁 現在、水洗化率は96%を超えている。個人住宅、企業自らの負担によりトイレ整備が進められており、公平性の観点からトイレ洋式化推進工事費用の補助制度は考えていない。

宮脇健一議員（日本維新の会）



観光戦略・ルート作りについて

答弁 ひまわりの丘公園を中心に周遊を促していく

質問 昨年12月、ひまわりの丘公園に巨大遊具広場が誕生。来場の際の食事処や、帰る際に白雲谷温泉ゆびかに立ち寄ってもらえるような一連のルート作りについて

答弁 市内の他の施設へも足を運んでもらう仕組みの構築が重要であることは認識しており、大型遊具完成に合わせてスタンプリーを実施し、来場者に周遊を促すように取り組んできた。また、観光施設や飲食店等の店舗情報を提供するため、本年4月にグルメと観光のガイドブック「おの恋ごはん」第5版を発行。さらに、5月には、ふるさと納税ポータルサイト「xmuふる」や「PayPay」と連携し、ふるさと納税返礼品として「PayPay 小野市限定商品券」を提供する仕組みをスタートさせた。

今後も周遊を促進する新たな取り組みにチャレンジしていく。

質問 小野市全体として盛り上げるためにも、SNS戦略の強化を提案する。

答弁 市としてもSNSが情報発信の中心になると捉えており、今後強化していかなければならないと考えている。小野市観光協会でもFacebook・Instagram・LINEを運用している。これらを活用し、若年層に向けてターゲットを絞りながら情報発信をしていきたい。欲しい情報がすぐ手に入る環境作りや、遊び方の提案等を発信し、インフルエンサー等により拡散されるような観光情報のPRについて取り組んでいく。

藤原 章議員（日本共産党）



新型コロナウイルス類移行でどうなる

答弁 検査・医療は自己判断、相談体制は継続する

質問 発熱等がありコロナが心配な場合、どう対処すればよいのか。

答弁 検査キットを薬局で購入して自己検査するか、かかりつけ医に電話して受診を。県や市の相談体制は継続している。

質問 コロナと診断された場合、行動制限はあるのか。

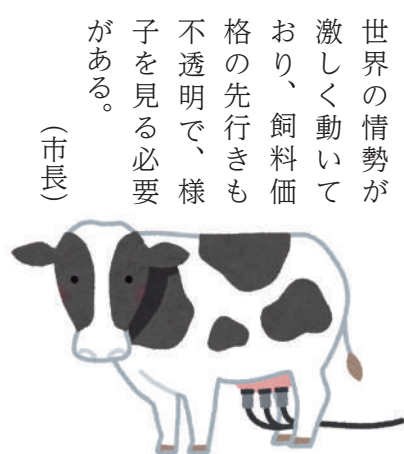
答弁 国は5日間の外出自粛を推奨している。

質問 市のホームページなどでわかりやすい広報をしてほしい。

答弁 意見を取り入れて検討する。

酪農・畜産へ緊急支援を

質問 国の物価高騰対策臨時交付金を活用する5月の補正予算の中に危機的な状況にある酪農・畜産への支援がなかった。どう判断しているのか。



酪農・畜産を守ろう

答弁 乳価引き上げと、国、県による酪農家支援が成果を上げていると考えている。また、国、県の追加支援に加え、再度、乳価の引き上げが決定している。

質問 酪農家に聞くと「飼料代は高値が続いており、乳価は上がったが、赤字が続いている」とのことだ。緊急に支援する考えはないか。

答弁 国、県の支援が一応の効果を上げており、市が独自の支援をするのは難しい。

世界の情勢が激しく動いており、飼料価格の先行きも不透明で、様子を見る必要がある。

高坂純子議員（無会派）



民生委員の負担が増えすぎではないか

答弁 活動の制限を設けたり制限の提案は考えていない

質問 民生委員の声は協議会で反映されているか。

答弁 様々な声は聞いているが、同協議会は、行政とは異なる市民協議会の活動なので、委員で最速に導いていただき、専門的分野では市として協力していきたい。

質問 町の世帯数と民生委員の配置人数に問題はないか。

答弁 民生委員から大変だという声も聞いており、区割り等を調整する県へ発信している。民生委員活動に対して自治会から協力いただけるとありがたい。

マイナンバーカードについて

質問 マイナンバーカードを巡るトラブルで、市民も不安に思っているのでは。

答弁 現時点では、小野市民及び市内でのトラブルの報告はない。

自転車の運転とヘルメット着用について

質問 本年4月から道交法の改正により、自転車利用者のヘルメット着用が努力義務となったが、市民への啓発活動は。

答弁 広報誌やホームページ、警察等と連携した交通安全教室等あらゆる機会を捉えて啓発を行っているが、自らを守るために結びつく効果的な啓発活動が課題である。

答弁 積極的啓発が重要であることは認識しているが、努力義務であること、昨年、県内のヘルメットなしの自転車事故死亡者数12人、これをどう捉えるか。付ける付けないは自己責任。

常任委員会 紹 介

常任委員会は、条例に基づき常時設置している議会の機関です。**本会議に提出された議案などを詳しく審査、調査**します。

また議会の閉会中には、所管事務についての調査研究のため視察や研修を行い、政策提言につなげられるよう取り組んでいます。

小野市では、**現在3つの常任委員会**を設置しています。

総務文教常任委員会



《下記の部局の所管事務について審査、調査を行う》
秘書課 総合政策部 総務部 市民安全部 消防本部
会計課 選挙管理委員会等事務局 教育委員会

- 7月12日～14日に視察研修を実施しました！
- 【1日目】 空き家対策について
於：岐阜県各務原市
 - 【2日目】 学力向上の取組について
於：福井県あわら市
 - 【3日目】 クリーンパーク折居について
於：城南衛生管理組合
- ◎詳細は、次号の議会だよりで報告します。

民生地域常任委員会



《下記の部局の所管事務について審査、調査を行う》
市民福祉部 地域振興部 水道部 農業委員会

- 7月26日～28日に視察研修を実施しました！
- 【1日目】 企業誘致と地域振興の取組等について
於：三重県多気町
 - 【2日目】 介護予防事業について
於：愛知県豊田市
 - 【3日目】 認知症事業について
於：三重県志摩市
- ◎詳細は、次号の議会だよりで報告します。

予算決算常任委員会

★令和2年3月定例会から常設の委員会として始動★

以前は、当初予算や決算は特別委員会、決算研修会などで審査し、補正予算は各常任委員会に分割付託し審査していました。

しかし行政実例では、予算は複数の委員会で分割審査すべきものではないとされているため、常設の委員会として設置しました。

《すべての部局の予算・決算について
審査、調査を行う》

常任委員会審査報告

6月定例会の提出議案審査について、予算決算、総務文教の各常任委員会を開催し、当局から細部にわたる説明を受け、慎重に審査しました。

《予算決算常任委員会》

6月22日開催

付託議案数：1件（議案第29号）

審 査 結 果：反対討論はなく、全会一致で可決すべきものと決定。

●主な審査内容

議案第29号 令和5年度小野市一般会計補正予算（第2号）について

「小野市観光推進アドバイザー」の登用について、小野市流の観光行政として新たな観光資源や特産品などの掘り起こしに期待したいという意見が出ました。

《総務文教常任委員会》

6月22日開催

付託議案数：5件（議案第30号～第33号、請願第1号）

審 査 結 果：【議案第30号～第33号】反対討論はなく、全会一致で可決すべきものと決定
【請願第1号】全会一致で不採択と決定。

●主な審査内容

議案第32号 消防ポンプ自動車の取得について

小型水槽のものを採用し、集落の狭い道路にも対応できるようにすること、また泡と水の混合装置を搭載し、水のみよりも迅速な消火活動が可能となることなどを確認しました。

議会と市民との懇話会

一般質問をする日の休憩中に、傍聴に来られた方が議会での一般質問などについて質問することができ、市当局や議員がその場で答える懇話会を実施しています。傍聴に来られた方のみが体験できる時間ですので、ご覧になりたい方、参加したい方は是非とも議場にお越しください。



懇話会での意見

- 外国人の方に対する災害時の対応について
- 有害鳥獣対策について
- など

議員協議会

令和5年7月8日実施



聴覚障がい者を取り巻く現状と課題の共有、小野市における障がい者福祉制度に対する意見交換等を目的として、小野市聴覚障害者協会と手話サークルの皆さまをお迎えし、普段の生活で不便なことや、手話通訳者等の設置状況について様々なご意見をいただきました。

小野市では、平成28年3月に「小野市手話、要約筆記、点字等意思疎通手段利用促進条例」を制定しています。参加者からは手話は一つの言語であり、1人でも多くの方に楽しんで学んで欲しいとのお声をお聞かせいただきました。

- 「耳が聴こえない」ということは、日本語そのものが理解できていない人もいて、筆談では意思疎通が食い違ってしまふ人もいます。
- 日々の生活で困っていることがなかなか分かってもらえない。
- “ありがとう”や“こんにちは”の手話からでも、皆さんに親しんでもらいたい。

小野市議会では、議場の傍聴席に、難聴者の聴こえを支援する磁気ループを設置しています。磁気ループとは、ループアンテナ内で誘導磁界を発生させることで音声磁場をつくり、周りの騒音・雑音に邪魔されずに、目的の音・声だけを正確に聴き取ることができるものです。



専用機の貸出しもしておりますが、お手持ちの補聴器等で対応可能な機種もあります。ぜひ傍聴の際にご活用ください。

議員研修会(市民救命士講習会)

令和5年6月30日実施

心肺蘇生が必要な場面に遭遇した際に、AEDの使用を含め適切な対応ができるよう、消防本部職員の協力のもと小野市防災センターにおいて、全議員が市民救命士講習を受講しました。



消防本部職員による講義とDVD視聴のあと、人形を使い心肺蘇生やAEDの使用方法を学びました。正しい知識と技術習得のため、何度も繰り返し練習しました。様々な質問にも丁寧に答えていただき、いざという時に行動する大切さと、救急車が到着するまでの心構えが出来たように思います。



消防本部では、今回6月定例会で可決された補正予算で講習用資器材であるAEDトレーニングユニットを新たに整備します。

【AED(自動体外式除細動器)】「除細動」とは心臓がけいれん(細動)した状態を「取り除く」ことを指し、心臓に電気ショックを与えることでAEDが除細動を行います。

119番通報をして、救急車が到着するまで約9分(全国平均)、小野市では約7分。救急車が来るまでの1次救命で大切なのは勇気をだして行動すること!

誰が、いつ、どんな状況で事故に遭遇するかは予測できません。救急車が到着するまでに少しでも救命措置が行えるよう、この講習の経験を生かします。

水の事故も増えています。いざという時、大切な人の命を助けられるよう、市民救命士講習を受けてみませんか?



兵庫県市議会議長会・全国市議会議長会表彰

第271回兵庫県市議会議長会総会において、兵庫県市議会議長会副会長を務められた岡嶋正昭前議員に感謝状が贈られました。

また、第99回全国市議会議長会総会においても正副議長を4年以上務められた功績に対し表彰状が贈られました。



議会を傍聴しませんか

☆ 9 月定例会日程 ☆

- 8月30日(水) 午前10時～
本会議(第1日) 議案説明
- 9月13日(水) 午前10時～
本会議(第2日) 一般質問
- 9月14日(木) 午前10時～
本会議(第3日) 一般質問
- 9月28日(木) 午後1時30分～
本会議(第4日) 議案の採決など

- ★一般質問では、市長から提出された議案や、市政全般について議員が質問し、市長や部長等が答弁します。
- ★9月定例会で一般質問する項目・内容については、9月上旬に市議会ホームページに掲載します。

「手話通訳」・「要約筆記」を利用できます

本会議を傍聴される際に「手話通訳」・「要約筆記」を利用することができます。
希望日の8日前までに議会事務局にお申し込みください。
(費用負担はありません)



傍聴に行けなくても YouTubeで議会中継



アプリをダウンロードするとスマホに広報誌が届きます!



傍聴席から見た議場

小野市議会では、本会議を一般公開しています。当日受付で、住所・氏名を記入するだけで、どなたでも議会の傍聴ができます。
市役所6階 議会事務局までお越しください。

議会と市民との懇話会

一般質問を行う日の本会議休憩中に、傍聴者の方からご意見をいただく機会を設けています。展開される議論にご注目ください。一般質問は9月13日(水)、14日(木)に行います。

「託児コーナー」を開設

一般質問を行う9月13日(水)、14日(木)は、「託児コーナー」を開設します。
傍聴の際には、1歳から就学前のお子様をお預かりします。
9月5日(火)までに、議会事務局までお申し込みください。
(費用負担はありません)



議会傍聴者数

6月定例会50名
(令和5年度累計54名)

＜お申し込み先＞ 議会事務局 TEL. 63-1006(直通) FAX. 63-4108
E-mail: gikai@city.ono.hyogo.jp (市議会だよりへのご意見もこちらまで)

【市議会報編集委員会】
委員長 山本 悟朗
副委員長 喜始 真吾
委員 堀井 ひさ代
委員 山本 麻貴子
委員 宮脇 健一
委員 村本 洋子
委員 平田 真実

今回の特集では会派を取り上げ、名前の由来・歴史や理念・活動方針等を掲載しています。歴史ある会派、新しくスタートした会派、政党・無党派等様々ですが、議員活動は会派に関係なく市民の代表として市政に参与していきます。

また、新たな編集委員会には新人議員3名が参加しており、市民目線での意見も反映できればと思っています。議案の内容、旬な情報等を発信し、一人でも多くの方に読んでいただける議会だよりを目指します。

(市議会報編集委員 堀井ひさ代)

あとがき

※QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。